



# 高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F  
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006  
URL : <http://www.hokkaido-kouren.com/>

## 今号の内容

- ▶ 第62回全国高P連大会和歌山大会
- ▶ 高校生と語るつどい
- ▶ 第56回定通生活体験発表大会
- ▶ 支部だより

## 第62回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会にて受賞



日頃より北海道高等学校 PTA連合会に対しまして、ご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、平成24年8月22日から24日まで、和歌山県におきまして第62回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会が開催されました。この大会の開会式・表彰式におきまして、第61回全国高等学校PTA連合会大会北海道大会の主管を務めた北海道高等学校PTA連合会連合会並びに実行委員長である榎原綾子氏（現本会顧問）に対しまして全国高P連相川順子会長より特別感謝状を授与されました。本会報を通じて皆様にご報告申し上げると共に、この北海道大会の開催にあたり、ご協力下さいました各單位PTAの皆様に心よりお礼を申し上げます。「いのち輝け！」～人・夢・愛ひたむきに頑張る君たちを応援したい～このテーマのもと開催された北海道大会は、全国から1万人近い参

会者の皆様をお迎えし、大成功のうちに終了することができました。今でも来道された参会者の皆様や理事・役員の皆様から「素晴らしい大会でした」・「記憶に残る大会でした」とのお褒めの言葉を頂きます。また、次期開催県の皆様は「北海道に追いつけ！追い越せ！」と目標としている大会でもあります。このように素晴らしい大会が開催できましたのも、準備の段階からご協力を頂きました皆様の「ひたむき」なお力があつてのことと考えております。改めてここに皆様に對しまして敬意を表し、感謝を申し上げます。

北海道大会に向けた熱意と情熱を今後とも共有しながら、明日からまた、時代を担う子供たちに向けた活動を、各単位PTAや各支部において行っていただき、元気で夢のある未来を北海道から発信したいと考えます。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 特別感謝状受賞のご報告

北海道高等学校PTA連合会 会長 中島圭

圭

第61回全国大会開催地に対する特別感謝状受賞

「神様からの贈り物」

北海道高等学校PTA連合会 顧問 樺原綾子

もしもPTAの神様がいるとしたら。  
会北海道大会を、この素晴らしい皆さんと迎えられた

PTAで出会つた、そして共に活動してきた多くのことは本当に幸せなことでした。

方々は、きっと、神様から私への贈り物だと思つています。

全国から参加された皆様に感動を与えることができたのは、これまでの北海道

北海道の広い大地。各々の地域にはそれぞれの特性があり、環境も職業も違う私たちが、たった一つの「子どもたちのために」という思いだけで集まりました。忙しい仕事の中時間をつけて、仲間と車座になつて熱く語り合う姿、子どもたちの頑張りに精一杯の声援を送る姿、感動に涙する姿。そんな素敵なお仲間たちに出会えたことは、まさに奇跡。神様からの贈り物です。

今回、和歌山大会で北海道高等学校P.T.A連合会は特別感謝状をいただきました。そして実行委員長でアツタ私も特別感謝状をいただきました。この感謝状

各単位P.T.A、各支部の皆さんの思いの深さ、充実した活動が基盤となり、そして大会当日のスタッフのホスピタリティに徹した姿勢や笑顔、一つ一つの課題に丁寧に、誠実に取り組んだことがもたらした偉業です。

は、皆様と共にいたいたいものです。そう、神様から私たち皆へのご褒美なのでしょう。私は、この感謝状を素敵な皆様との思い出と共に、大切にお預かりしたいと思います。

受賞に感謝して

**北海道留萌高等学校 P.T.A 賞に感謝して**（北海道高等学校 P.T.A 連合会 前副会長会  
顧問 松 本 衆 司

そして何より、すべての子どもたちが笑顔で、その命を輝かせることが出来ます。よう、心からお祈りしています。私も、皆さまから

いただいたたくさんのもの  
に少しでもお返しが出来る  
ように、努めていきたいと  
思います。神様からの贈り  
物に感謝しつつ・・・

校 P.T.A 連合会専務理事として、「子供たちのために」を合言葉として活動できた事、本当に多くの仲間に支えられての日々を改めて感謝いたします。

今回の私に与えていただきいた謝辞というハレの場は、実は昨年の北海道大会を成功裏に収めた北海道の会員の皆さん全員に対してもう一つの場であつたと思っています。

現在は単Pにおいて顧問職をいただいておりますが、これからも地域の一員として子供たちの成長をお手伝いしたいと考えます。繰り返しになりますが、PTAを通して多くの仲間ができました。本当に財産だと思っています。長い間お世話になりました。

和歌山大会にて紹介されました



北見緑陵高校



庄尾高校



# い」～21世紀をどう生きるか～

留萌支部

テーマ

## 『観光～地域の「もてなし力」を学ぶ～』

(1)ポートウォッチング（留萌港で乗船体験）  
萌港事務所で留萌市と港の歴史的な関わりと役割について説明を受けたあと、二つのグループに分かれて事務所所有の高速巡視船

(1)1日目  
前通りをグループで散策すること、留萌と増毛の駅前通りをグループで散策すること、留萌と増毛の駅前通りをグループで散策することなどなど。  
あれもこれもと欲張った結果、スケジュールが過密になり、参加の皆さんには大変忙しい思いをさせてしまいましたが、密度の濃い2日間になつたのではないかと思っています。

留萌港湾事務所のご協力で船を出していただき、留萌の港と町を船上から見学すること、留萌と増毛の駅前通りをグループで散策すること、留萌と増毛の駅前通りをグループで散策することなどなど。  
あれもこれもと欲張った結果、スケジュールが過密になりましたが、密度の濃い2日間になつたのではないかと思っています。

講演を聞き、それに沿った分科会で協議を深めると、例年行っている連合会の示す標準例とは少し違つた形で留萌らしいものが何ができるのか、そんなところから、今回の企画がスタートしました。

留萌駅周辺と増毛の町並み散策

8月4日(土)・5日(日)  
留萌管内から7校64名の生徒・保護者・教員が参加し、「留萌市海のふるさと語るつどい」が開催されました。

講演を聞き、それに沿つた分科会で協議を深めると、例年行っている連合会の示す標準例とは少し違つた形で留萌らしいものが何ができるのか、そんなところから、今回の企画がスタートしました。

# 平成24年度「高校生と語るつど

テー

十勝支部

# 互いに助け合い未来を築く



代社会に必要なのは協力。不足しているところは互い

表では、「日本がどれだけ恵まれているかを実感することが出来た」「現

予定されてし  
た時間を超える分  
科会となりまし  
た。各班の代表に  
てる意見交換のよ

た生徒たちも、時  
間の経過と共に活  
発な意見交換を行

えられた4つテマについて意見交換を行いました。

て熱く語つ  
だきまし

の経験を踏  
から「海外  
で自分が経  
きたこと」

ア共和国)  
の数ヶ国で  
支援活動等  
てきまし

大学園  
医学研修課  
程を卒業  
とアフリカ  
半海外協力

は、就寝までの間、  
自由交歎の時間と  
なつており温泉を

が繰りひろげられました。夕食のバイキングでなかを満たした後

ハリは生徒 保護者、先生方で構成  
(4名)されており、各チーム一丸となつて熱い戦い

たフロアーカーリングを体験しました。チームのメン

その後、十勝管内の町「新得」の特

に助け合う必要が  
どの意見が出さ

10

A group of students standing outdoors near a building.



校では体験できない事が沢山あり、とても貴重な経験となりました」「友達ができて良かったです」「将来もし機会があれば、発展途上国に行つて手助けをした

楽しんだり、ロビー等で友達になつた生徒同士で会話が弾むなど、各自で楽しい時間をお過ごして下さいました。2日目は、音更町にある柳月スイートピアガーデンのイカ国際センターでの施設見学と活動概要講話が行わされました。当事業に参加した生徒・保護者・教員から

い」「我が子ではない高校生とふれ合えて新しい発見ができました」等の感想が寄せられました。今回の「語るつどい」は、生徒のみならず保護者や教員にとっても貴重な経験となりました。最後に全日程を通して事故もなく無事に終了することができました。ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 日々、変わる

北海道札幌似工業高等学校定時制 4年 町田 亜実

**最優秀賞**



目に映る全ての物 耳に聞こえる全ての音、そして周りから痛いほどに伝わる緊張感や高揚感が、今でも鮮明に思い出せます。

二年生の終わりに、HRで「コミュニケーション能力アップ」をテーマにした映画をつくろうという、課外活動のチラシが配されました。正直、学校の前にはバイトがあり、成績に関わるわけではないと、読んだチラシはすぐに捨てました。しかし、その日の放課後、保健室に入った途端、養護教諭の中村先生に、あんたの力が絶対必要だ、素晴らしいことになるから参加しなさい！と力説され、参加することになってしまいました。一回目の実行委員会、集まつたのは生徒二十名と大学生が七名。中村先

生が映画の説明をしているうちに、皆なんだかやる気になつていつたのには驚きました。映画の主人公は、自分が正しいと思い、人の悪いところばかりを見て、嫌な奴だと決めつける。

そうやって孤立していく、そんな男の子。それはまるで、入学当時の私でした。

私が琴似工業高校の全日制を中退し、一年生から入学し直したのは十七歳の時。幼稚で騒がしく、数分も静かにできないクラスメイトに驚きと不満を抱えていました。こんな人達とは関わりたくない。そんな考えが伝わったのか、気がつけばクラスで一人きり。聞こえよがしに悪口を言われ、歩くだけでも笑われる。

相談はできなかつた。「私はクラスで孤立していて、毎日デブだブスだと言われて、授業であてられなければ声も出さず、歩くときは顔を伏せて床を見ながら、休み時間は携帯を開いて、メールをするふり、体育のバドミントンでは皆の死角

になる所で、目立たないよう壁打ちをしています」

そんな説明をして、家族や友人にまで「いじめられた子」に見られたら、恥ずかしくて情けなくて、生きていくないと思いました。でも、全日を辞めた私に残された道は琴定だけでした。何とか自分の力で解決しないことは、勇気を振り絞って、体育の時間、私は女の子のグループに「一緒にやつてもいい？」と震えながら声をかけました。最初は、気まずく、ただコートの中に入り込んでいるだけのようでした。それでも死角に隠れているよりずっと良かつた。そのうち、教室に映画のテーマ、コミュニケーション能力。みんなが積極的に相談役になつて、映画の主人公と同じように周囲がすべて悪い！とレッテル張りをしていた私もそこにいました。

そのことに気付いた時、この映画で学校を変えられると思いました。ヤンキー相手のいいところを見つけるという意味の、ポジティブコレクション、この言葉を学校中に根付かせた私は琴似工業高校の全道の中、高校に配布されたのです。一年以上かけた映画製作。最終的には全校の約半数六十七名と、多くの先生、大学生の方が参加してくれました。撮影最終日、映画製作のメンバーでタイトルを叫んだ光景。「ハッピーみらくるコミュニケーション！」そうやって、一緒になつて叫んだのは、同じ学校に通つていな

がら、映画製作がなければ目も合わせなかつたような人達ばかり。みんなと一緒にやりきつた達成感、学校全体が仲良くなつたように感じました。

私が4年間を過ごした琴定には、廊下で目が合えばおしゃべりをする映画製作のメンバー、何でも話せるようになった

フが一生懸命だから、自分

あつてゐる人にこそ参加してほしい。私と同じような失敗をしないで、しているなら気がついてほしいといみんなに参加を呼びかけました。

相手のいいところを見つけるという意味の、ポジティブコレクション、この言葉を学校中に根付かせた私は琴定だけでした。一年以上かけた映画製作。最終的には全道の中、高校に配布されたのです。一年以上かけた映画製作。最終的には全校の約半数六十七名と、多くの先生、大学生の方が参加してくれました。撮影最終日、映画製作のメンバーでタイトルを叫んだ光景。「ハッピーみらくるコミュニケーション！」そうやって、一緒になつて叫んだのは、同じ学校に通つていな

がら、映画製作がなければ目も合わせなかつたような人達ばかり。みんなと一緒にやりきつた達成感、学校全体が仲良くなつたように感じました。





今年度の支部活動状況と第62回北海道高等学校PTA連合会（旭川・留萌大会）を振り返り

旭川  
支部

今年度の支部活動状況と第62回北海道高等学校PTA連合会（旭川・留萌大会）を振り返り

旭川支部長 蜂谷規彦

旭川支部は、現在21校、PTA会員数9,859名が、「子ども達を思い、子ども達と共に成長していくことをう」と、互いに情報交換をしながら活動しています。平成24年度の総会は、旭川グランドホテルにて、5月18日（金）に、道高P連から榎原会長、宮川事務局長をお迎えして、総勢126名で盛会に開催されました。冒頭、榎原会長（現顧問）から「子ども達の今日的課題は、スマートフォンの普及で從来の携帯電話とは違った課題が出てきているなど、様々ある。課題解決のために今後も取組を進めたい」と述べられ、ご挨拶を戴きました。当支部の活動としては、6月に「広報担当者の集い」を開催し、広報紙作成の苦労やその課題そして楽しさや喜びを共有しながら、広報紙づくりのノウハウを学んでいます。次に10月に生徒指導研修会を行い、10月26日（金）の生徒指導研修会には、NTTドコモ安心インストラクターの杉浦由香先生を講師としてお迎えし、「ケータイ安全教室」と題し、スマートフォンや携帯電話に

が一体となつて運営をし、6月15日（金）16日（土）の両日開催しました。大会には全国各地より、1,162名の会員の皆様が参加され、ご来賓に全国高P連の相川順子会長、西川将人旭川市長にご出席を戴き、主催者を代表して挨拶された。中島会長は「子ども達のためにと言ふ強い思いを、こ



旭川支部は、現在21校、PTA会員数9,859名が、「子ども達を思い、子ども達と共に成長していくこう」と、互いに情報交換をしながら活動しています。平成24年度の総会は、旭川グランドホテルにて、5月18日（金）に、道高P連から榎原会長、宮川事務局長をお迎えして、総勢126名で盛会に開催されました。冒頭、榎原会長（現顧問）から「子ども達の今日的課題は、スマートフォンの普及で従来の携帯電話とは違った課題が出てきているなど、様々ある。課題解

る様々なトラブルの事例、またそれに対する防御法などを、81名の会員が真剣に学びました。近年、ケータイによつて、子ども達が犯罪などのトラブルに巻き込まれ、被害者にも加害者にもなつてしまふことが配されています。いかに保護者が、ケータイのマナーヤルール、正しい使用法などを理解し、トラブルから子どもを守るためにも、貴重な研修会となりました。

また、今年度は、第62回北海道高等学校PTA連合会大会・旭川・留萌大会が旭川において、旭川支部、

これからP.T.A活動の糧として「いただきたい」と述べられ、次に行われた神田山陽氏の講演会ではユーモアのある語り口で会員の皆様を時間が忘れるほど引き付けられました。また、2日目の各分科会は、旭川東高校、旭川商業高校の2校に分かれ、参加者の活発な話し合いが行われ、思い出に残る、有意義な大会になりました。ご参加を戴きましたすべての皆様、そして日頃より、旭川支部を支えていただいている方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

見部  
「地域の宝もの」を次代へ繋ぐ

北見部

「地域の宝もの」を次代へ繋ぐ

北見支部は現在二十九校、二十九単Pの加盟するオホーツク海に面した広大な面積の支部であります。本年は、当支部内の女満別高校が全校生徒百三十二名と小規模ながら北見支部で四十年ぶりに選抜甲子園大会の出場という快挙を成し遂げました。女満別高校のある大空町はもとより近隣地域の応援の下で選手たちのハツラツとしたプレーを観させてもらい、正にPTCAの基本形であったかと感じました。

さて、当支部では五月十八日に北見に於いて支部総会を開催し、二十三年度決算、二十四年度予算、役員改選などの議案承認をいたしました。また、道高P連より松本副会長にご出席いただき、昨年の全国高等学校PTA連合大会（北海道大会）のお礼の言葉をいただきました。

統いて六月八日、九日と紋別市に於いて、紋別高等学校PTAの主管の下、参加者百四十六名の中でも北見支部研修会を開催させていただきました。

研修内容としましては、第一部、北海民友新聞社代表取締役、新沼透様に「地

その後、三分科会に分かれ「時代の要請に応える魅力ある学校づくりを目指して」、「子どもと保護者が共に学び、成長するための学校と家庭の連携」、「教育の場となる環境づくりとPTA活動」という三テーマで活発な意見交換が行われました。二日目には、研究討議としまして七分科会に分かれ、各学校のPTA活動について、フリートーク形式で話し合いました。また、懇親会においては紋別高校の鈴木PTA会長自ら盛り上げ役となつていただき、大変楽しいひと時を過ごさ



域の宝もの」と題し講演をいただきました。

地元紋別市にある旧跡等の中から知名度の高くなっている所でも歴史、経緯を辿ればその地域にとつて大切な宝となる事を学ばせていました。また、その旧跡を活用し、子どもたちに昔の生活を体験実習させて成果を上げている事に感銘いたしました。私達大人が、普段何気なく通り過ぎて見ているものを、これから次の代を担う子どもたちに引き継いでいくてもらうためにも、大切な教育の一つです。

その後、三分科会に分かれ「時代の要請に応える魅

本年と北見支所を主会場として活動研修会を開催しました。移動講師による講義、各校が一晩泊まり、高校と紋別の高校を組んで、出来なかつてはならないことを積ませて、Aの皆さんと一緒に感謝の言葉を述べました。